

## 生誕 135 年 竹久夢二展 —幻想の美 秘められた謎—

京都高島屋 2020. 03. 04～03. 15 横浜高島屋 2020. 03. 18～03. 30

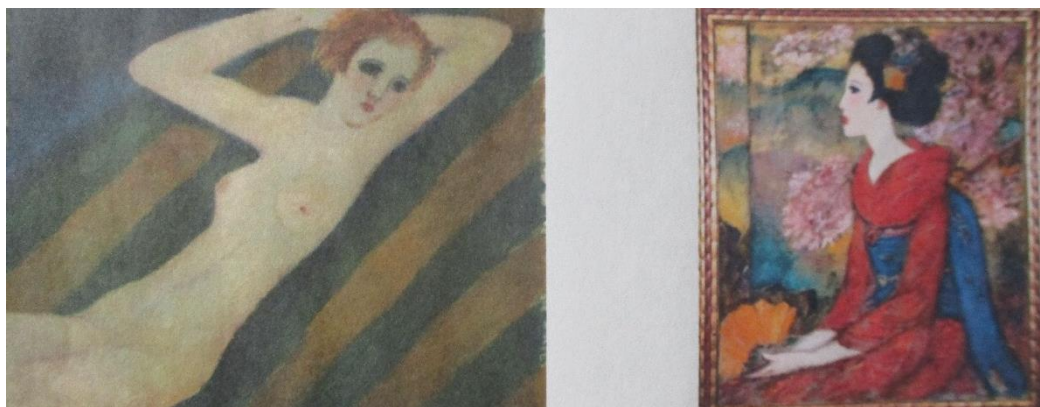
大阪高島屋 2020. 04. 08～04. 19 日本橋高島屋 2020. 05. 13～05. 25

「竹久夢二」(188～1934) は、画家としての活動に止まらずデザイナー・詩人・文筆家などの総合美術家として様々な部門で数多くの作品を残し、恋と旅を重ねた劇的な生涯を送ったため、画伯の表現した芸術とその生き方、独特な世界観は今も尚現代人に新鮮な魅力を放ち多くの人々の感動を捕らえている。

本展は、「画伯の生誕 135 年・没後 85 年を記念した巡回展覧会」で、選び抜かれた「約 150 点の作品」を 4 つの章にて構成されて展観されている。

### 第 1 章 樹下美人から海辺の裸婦へ

夢二は、S 字式ラインの身体に心情を表す目・手・足を大きな美人女性像を描き、作品は多くの人々を魅了したため世の女性が真似て社会現象になった。



《西海岸の裸婦》 油彩 1931～32 年

《花衣》 1931～32 年

今回、2 作品が「夢二郷土美術館」外で揃って公開されるため注目される。

### 第 2 章 遙かな国 夢の世界

日本文化と西洋文化が交じり合う「大正ロマン」時代は、西洋画、中国文人画、浮世絵などに幅広く興味を持ち、異国情緒溢れる作品に表現されている。

### 第 3 章 人生劇場の情念のドラマ

夢二が幼少時から親しんだ「芝居」や、妻や恋人たちと歩んだ自身の人生にも重なる「情念のドラマ」を題材にした作品を紹介している。

### 第 4 章 新感覚と奇想のデザイン

画家の枠を超えて、著作本を始め多くの書籍・雑誌の装丁・挿絵、楽譜の表紙デザイン、様々なジャンルの音楽曲を絵・デザイン・タイポグラフィーで表現、絵ハガキや日用品にも至る様々な部門のデザインの作品の展示である。